

第 12 期（2023 年度）事業報告

2023 年 10 月 1 日～2024 年 9 月 30 日

事業報告書

1. 事業概要

1. 1 はじめに

2012 年（平成 24 年）9 月 26 日に財団を設立、今期で第 12 期の事業を終えた。設立の背景には、「失われた 20 年」といわれる 1990 年代から低迷してきた日本経済を成長軌道に乗せられないかがあった。また、技術経営学の研究成果を、経営人財の育成に生かすことが財団設立の狙いでもあった。定款に「豊かで明るい持続的な成長をする日本づくりに寄与することを目的とする」を掲げて活動をしてきた。

設立から 12 年を経過した今、日本は予測できないほどの大きな環境変化の中におかれている。変革の波が世界中で発生し、日本にやってくる。

（1）ロシアのウクライナ侵攻でグローバル経済が 2 極化した。終わりが見えない戦争となってしまった。

（2）アジアでは、中国との対立が、各所で浮き彫りになっている。

（3）イスラエルと中東諸国との紛争が、終わりの見えない戦争になろうとしている。

（4）自由主義経済の中で取り残された日本の低金利政策の見直し機運が出てきた。

（5）円安による国内物価が上昇し、消費構造に変革がおきている。

（6）新型コロナを機に働き方改革が進行し、生活様式が大きく変わった。

（7）「非正規」労働が正規となってしまう、日本の製造現場に異変が起き出した。

外部環境の変化が急速に起きている。一企業ではどうにもならない。いかなる影響を企業が受けるかは一様ではない。多様化の時代ともいえる。

財団は変革の嵐に耐えられる企業経営とは何かを研究し、その知見をいかに効率的に、経営者に教示できるかが問われている。今年度から『風の時代を読む』と題する研究会に取り組んだ。

世の中がどのように変容しているのか。その変化は風のごとく急速で、さまざまな方向へと向きを変える。その変化に対応できる技術経営人財の育成に財団は取り組む。

西河技術経営塾のノウハウを整理した

人には寿命があるが、西河技術経営塾に寿命があってはならない。永続的な塾とすることを目指したいとの課題に第 11 期から暗黙知の文字化（形式知化）に取り組んできた。

次世代の講師に引き継ぐためのことができる「西河技術経営塾演習の教授法」「西河技術経営塾運営マニュアル」「講義計画書」などがつくられた。その成果は、2023 年 12 月に設立した「西河技術経営塾講師養成研究会」に提案され、審議し、その意見交換を通じて新たな気づきを得た。

マインドチェンジができて売上が 10 倍

「西河技術経営塾演習の教授法」の一部を紹介する。

(1) 講師は、塾生の講義の理解度を評価するとともに、塾生に対してアドバイスに繋がる質問を投げかける。その質疑応答を通じて、塾生の理解度を把握するとともに、課題への取り組みの姿勢も講師はつかみ取る。

(2) 講師は、実践的な経営に対する知見を深めるアドバイス（助言）を行うことで、経営者マインドの変更を促す。それは、売上が 10 倍にしようとする時、今までの経営に対する考え方そのものを、塾生が見直し、変更する必要があるからだ。

(3) 現状の経営者マインドを変えない限り、成長するための変化は起こらない。起爆剤となる切っ掛けが必要なのだ。

1. 2 社会情勢

温暖化、線状降水帯、非正規、中小企業の債務超過など、経営者にとって不安のみが残る。海外に出ると物価高に驚き、日本は貧しい国になったと皆がいう。現状の日本の経済を低成長にしている原因は、賃金を抑制してきた結果だといわれてきた。賃金を沢山支払えば、日本の経済は上向きになる。日本を元気にできる。景気を良くすることが出来るのは、経営者である。

中小企業は、正規社員の現場力で、生産性を改善し、得られた収益を従業員に分配し、社員の生活レベルを向上させる。やる気にさせ、元気な社員で元気な会社にする。そのようなことが出来る経営者を育成するのが、財団の経営者育成事業である。

余田幸雄氏を講師に迎え『第 30 回技術経営人財育成セミナー』で米国海兵隊などの話を聞くと、米国に日本の現場力を生み出すノウハウが移ってしまったといっている。非正規社員で構成された日本の工場には、日本の強みの企業忠誠心や 5 S という現場力が無くなった。その結果、品質レベルは低下し、組織ぐるみの不正が横行する。

財団が取り組む経営者育成では、変革の時こそ、小が大に勝てる時代が来たと経営者に鼓舞する。「非正規」という言葉が、日本を狂わしている。中小企業は、正規社員を中心に組織化されている。中小企業が、「非正規」社員が働く大手企業に勝てる状況になった。

1. 3 主要な経営人財育成事業

財団は、主に中小企業の経営者に視点を移し、5 つの経営人財育成事業に取り組んだ。

- (1) 西河技術経営塾（実践経営スクール代々木校 11 期：修了生 3 名）
- (2) 西河技術経営塾（実践経営スクール沼田校 5 期：修了生 3 名）
- (3) 敬愛大学・寄付講座 7 期「西河「技術経営学」入門」：修了生 49 名）
- (4) 西河技術経営塾講師養成研究会
- (5) 風の時代を読む研究会

2. 西河技術経営塾

2. 1 西河技術経営塾・実践経営スクール（代々木校、沼田校）の概要

西河技術経営塾は、「実践経営スクール」とも言い、実務ですぐに役立つ実践的な経営を学ぶ場である。おもに中小企業の経営者が受講してきた。塾で技術経営学を教え、豊かな社会づくりに取り組むことができる経営人財を育成してきた。

西河技術経営塾で取り組んでいる演習は、講義で学んだことを、塾生が現状取り組んでいる実際の経営に生かすための取り組みである。あらかじめ宿題として準備してある課題に取り組み、原則次の演習のなかで塾生から報告を受ける。

演習を通して、座学での学びを塾生の会社の個別経営課題に置き換えることで、実際の経営課題の解決ができる。演習の中で、経営者の経営マインドの変更に取り組み、経営者育成と、企業業績を飛躍的に向上させるなどの成果を上げてきた。

11期の代々木校（2024年4月）までは、西河洋一、小平和一郎、山中隆敏、浅野昌宏、松井美樹、小坂哲平の6名が講師を担当した。

5期の沼田校（2024年3月9日開塾）からは、講義構成を次世代を意識して属人的な講座を見直し、西河洋一、小平和一郎、小坂哲平、松井美樹の4名が講師を担当した。

講師養成研究会の議論を踏まえ5期の沼田校からは、次世代の西阿技術経営塾を想定して、学びを5項目に整理した。

- （1）売上を10倍にする西河技術経営学を学び、雇用を増やし、税金を払う、
- （2）お金は企業の血液であることを学ぶ、
- （3）実践的思考、変革的思考を塾生参加型で学習する、
- （4）日本の技術経営研究の成果に基づいた体系化されたカリキュラムで学ぶ、
- （5）自社の経営課題を題材にし、明日から使える実践的な経営を学ぶ。

2. 2 西河技術経営塾・実践経営スクール（代々木校11期）の開塾状況

代々木校の第11期生は、2023年09月06日に開塾し、2024年4月05日に修了した。修了証授与式は、日本工業倶楽部で行った。

石原秀昭（株式会社アーキ不動産 代表取締役）、金子優太（DSP株式会社 取締役）、若野貴信（株式会社若野鋳造所 取締役）の3名が修了した。若野貴信に優秀賞を授与した。

（1）開催日程

本実践経営スクールは、24回開催した。原則、毎週水曜日に開講し、1日の構成は前半の18時～19時30分を座学に、後半の19時40分～21時10分を演習に取り組んだ。

（2）第11期の講義実績

（第1章）2023年09月06日、技術経営とは何か（小平）

演習：自己紹介と会社案内。

（第2章）09月13日、企業文化とアイデンティティ（小平）

演習：塾で学びたいこと、現状の問題と課題。

（第3章）09月21日、ビジネスモデルづくりを学ぶ（小平）

- 演習：自社のビジネスモデルを報告する。
- (第4章) 10月04日、企業財務入門 (小平)
- 演習：自社の技術的強みを報告する。
- (第5章) 10月18日、モノづくりとコトづくり (小平)
- 演習：自社のビジネスモデルを分析する。
- (第6章) 10月11日、西河技術経のルーツを学ぶ (西河)
- 演習：西河塾長の講義を受講して3問以上の質問を考える。
- (第7章) 10月25日、コストハーフ戦略 (小平)
- 演習：自社の財務諸表を分析する。
- (第8講義) 11月01日、新規の市場を創生する (松井)
- 演習：事業計画を報告する
- (第9章) 11月08日、サービスビジネス (松井)
- 演習：原価低減、経費削減策を報告する。
- (第10章) 11月15日、収益モデルに基づいた中長期戦略 (小平)
- 演習：サービスイノベーション戦略を報告する。
- (第11章) 2024年01月31日、グローバル経営戦略 (山中)
- 演習：エンジニアリング・ブランド戦略を立案する。
- (第12章) 2023年12月06日、中小企業のブランド構築戦略 (小坂)
- 演習：自社のブランド戦略を報告する。
- (第13章) 12月20日、ICTを利用したビジネスモデル (山中)
- 演習：新規の事業戦略を検討する。
- (第14章) 2024年01月24日、エンジニアリング・ブランドづくり (小坂)
- 演習：自社または商品の広告を作成する。
- (第15章) 01月10日、中小企業のDX戦略 (小平)
- 演習：ICT戦略 (即実行、次年度、中長期)
- (第16章) 2023年11月29日、海外を知る (浅野)
- 演習：中長期戦略を報告する。
- (第17章) 2024年02月07日、商品開発プロジェクトマネジメント (小平)
- 演習：グローバル経営戦略を報告する。
- (第18章) 02月14日、中小企業のERP戦略 (小平)
- 演習：商品開発プロジェクトを提案する。
- (第19章) 02月21日、マネジメントとリーダーシップの違い (小平)
- 演習：ロボットの活用、自動化などの戦略を報告する。
- (第20章) 02月29日、報告書と論文の書き方 (小平)
- 演習：研究報告書のテーマを決定する。
- (第21章) 03月06日、人財育成と設備投資 (小平)
- 演習：研究報告書の概要レビュー。
- (第22章) 03月13日、品質とコンプライアンス (小平)
- 演習：研究報告書の概要レビュー。

（審査会）03月27日、課題発表（塾生）

（修了式）04月05日、日本工業倶楽部

（3）受講料 受講料は、17万円とした。

2.3 西河技術経営塾・実践経営スクール（沼田校5期）の開塾状況

沼田校の第5期生は、2024年03月06日に開塾し、2024年07月27日に修了した。

5期も引き続き小坂哲平（代々木校5期生）が、塾の進行を担当した。小坂は講義に向けて「予習・復習」の時間を設け、塾生を指導した。

沼田校の審査会と修了式をテラス沼田（沼田市役所）内の会議室で行った。梅田裕大（株式会社国洋環境開発研究 企画部長 CSO）、千吉良徳人（株式会社千吉良電気工事 代表取締役）、平原 将吉（株式会社みはし店長）の3名が修了した。平原 将吉に優良賞を授与した。

（1）開催日程

（第1日）2024年03月09日、開講にあたって（西河）、

（第1章）技術経営とは何か（小平）、

（第2章）企業文化とアイデンティティ（小平）

演習：自己紹介と会社案内。塾で学びたいこと。

（第2日）03月23日、

（第3章）ビジネスモデルづくりを学ぶ（小平）、

（第4章）企業財務入門（小平）

演習：現状の問題と課題を報告するとともに、SWOTを作成する。

現状の経営理念、目標とする企業、自社の技術的強みを報告する。

（第3日）04月06日、

（第5章）モノづくりとコトづくり（小平）

（第6章）中小企業のブランド構築戦略

演習：自社のビジネスモデルを分析する。自社の財務諸表を報告する。

（第4日）04月20日、

（第7章）コストハーフ戦略（小平）、

（第8章）新規の市場を創生する（松井）、

演習：事業計画（売上、利益）を報告する。新規の市場創出戦略を検討する。

（第5日）04月27日、

（第9章）サービスビジネス（松井）

（第10章）収益モデルに基づいた中長期戦略（小平）

演習：新規の市場創出戦略を検討する。原価低減、経費削減策を報告する。

（第6日）05月11日、

（第11章）西河技術経営のルーツを学ぶ（西河）

（第12章）西河洋一の経営哲学（西河）

(第7日) 05月25日、

(第13章) 中小企業のDX戦略(小平)、

(第14章) エンジニアリング・ブランドづくり(小坂)

演習：中長期戦略を報告する。サービスイノベーション戦略を報告する。

(第8日) 06月15日、

(第15章) グローバル経営戦略(小平)。

(第16章) 財務諸表で企業実態の分析(小平)

演習：自社または商品の広告を作成する。自社のDX戦略を報告する。

(第9日) 06月22日、

(第17章) プロジェクトマネジメント(小平)、

(第18章) 中小企業のERP戦略(小平)

演習：自社の経営実態を財務データで分析する。

エンジニアリング・ブランド戦略を立案する。

(第10日) 07月06日、

(第19章) 論文の書き方(小平)、

(第20章) 組織マネジメント(小平)

演習：自社のERP戦略を報告する。研究報告書のテーマの設定。

(第11日) 07月20日、

(第21章) 人材育成と設備投資(小平)、

(第22章) 品質管理とコンプライアンス(小平)

演習：研究報告書のレビュー。

(第12日) 07月27日、課題発表会・審査 修了式(受講者)

(2) 受講料 受講料は、17万円とした。

2.4 西河技術経営塾ネット入門講座の開設(公益活動)の取り組み

西河技術経営塾の更なる発展を目指し、YouTubeを使った「ミニ講座」の動画配信を行った。財団活動の公開性を高めることに目的を置く。西河技術経営塾で取り組む経営者育成の周知、塾修了生の学び直しの支援等ができるものと考えている。

今期は、新たな講座の作成は行わなかった。

3. 敬愛大学での寄付講座（7期目）

敬愛大学（三幣利夫 理事長）における『経営シミュレーション ―西河技術経営学入門―』と題する寄付講座は7期目を終えた。敬愛大学経済学部経営学科の学生に「技術経営」を教える。学生に経営を教えることは難しいが、経営の具現化手段として整理した「技術経営学」の内容が、「経営学」を理解するために役立つことが分かった。7年の講義を通して、学生から学ぶことができた。財団の狙いは、「西河技術経営学」の再評価と学術研究の機会を得ることと、技術経営の「技術」をいかに分かりやすく伝えるかの教育実習の機会を得ることである。4月から始まる前期の火曜日の3限目に対面形式で行った。49名の学生が修了した。寄付講座の概要を以下に示す。

- （1）設置年度 令和6年度（2024年）4月～7月
 - （2）講座担当責任 アーネスト育成財団 専務理事 小平和一郎
 - （3）寄付者 一般財団法人アーネスト育成財団
 - （4）寄付金 百万円（年間）
 - （5）開講科目 経営シミュレーション（西河「技術経営学」入門）
 - （6）講座構成 『西河「技術経営学」入門』の章単位で講座を進める。（表1）
 - （7）担当講師 西河洋一、小平和一郎、浅野昌宏、杉本晴重
 - （8）期待する成果 日本企業にとって重要な「技術経営」という新しい概念を学習する。モノづくりやコトづくりに関連する学びを通じて、製造のみならずサービス業を含めて企業が保有する技術が、ビジネスの具現力になっていることを学ぶことが出来る。
- また、技術がビジネスをする上での、強みの源泉となっていることも学ぶ。

表1 「経営シミュレーション（西河技術経営学入門）」2024年講義日

No.	開講日	授業項目	授業内容	グループ討議テーマ		記 事
1回	4月16日	第1章 技術経営とは何か	技術経営における技術の役割と存在を理解する。	エンジニアリングとマーケティングの違いを語る。	小平	
2回	4月23日	第2章 企業文化とアイデンティティ	日本型経営、企業理念、企業の社会的責任。	日本型経営の強みを考える。	小平	
3回	4月30日	第3章 ビジネスモデルづくりを学ぶ	具体的な商品やサービスと顧客。収益見通し。	コンビニとスーパーの違いを語る。	小平	
4回	5月7日	第4章 商品開発の取り組み	商品企画書。収益づくり。	開発商品の市場調査の方法を提案する。	杉本	ゲストスピーカー
5回	5月14日	第5章 モノづくりを学ぶ	モノづくりの理解。製造原価の把握。	ミニテスト（1回目）：10点配分	杉本	ゲストスピーカー
6回	5月21日	第7章 サービスをビジネスにする	サービスのSPとホスピタリティ。	製造業とサービス業の違いを考える。	小平	
7回	5月28日	第8章 ICTを活用した新規ビジネス	モノの流れが変わり、時空間を越えた商取引。	ICTを使ったビジネスモデルを報告する。	小平	
8回	6月4日	第6章 西河技術経営学のルーツを探る	誠実な心と経営。企業成長を支える技術。	3問以上の質問事項を作り上げる。	西河	特別講義
9回	6月11日	第9章 海外取引の基礎知識を学ぶ	国際ルールを学び、海外取引の要点を押さえる	海外に3年間転勤、どんな準備をする。	浅野	ゲストスピーカー
10回	6月18日	第10章 エンジニアリング・ブランドづくり	新規市場創生に役立つ技術のブランドを学ぶ。	ミニテスト（2回目）：10点配分	小平	
11回	6月25日	第11章 経営は未来学、中長期計画を立案する	技術開発計画、設備計画、販売計画、人材育成。	市場創生の方法を考える。	小平	
12回	7月2日	第12章 プロジェクトマネジメントを学ぶ	プロジェクトとは何か。計画の策定から終了まで。	コミュニケーションについて考える。	浅野	ゲストスピーカー
13回	7月9日	第13章 イノベーションを企画する技術経営	社会変革を起こす経営。非常識から常識に。	日本のイノベーション企業と事例を報告する。	小平	
14回	7月16日	第14章 マネジメントとリーダーシップの違い	組織管理。リーダー像。	マネジャーとリーダーの違いを説明する。	小平	
15回	7月23日	確認試験	講義全体の理解度の確認と評価。	確認試験：80点配分	小平	

4. 文字化プロジェクト

財団では、西河技術経営塾の強みを理解し、その教育法を文字化する取り組みを 2023 年 4 月から始めた。西河技術経営塾の暗黙知を文字化し、形式知化する試みである。財団が抱えてきた積年の課題を解決するプロジェクトとして位置付けて、『文字化プロジェクト』と名付けて取り組んできた。

事務局員の松井美樹と小平和一朗専務理事と西河技術経営塾で取り組んでいる課題を議論した。その内容を松井美樹事務局員がまず文字化した。経営学の整理では、常に学問と実務との橋渡しの方法が課題になる。

今期の成果としては、西河技術経営塾講師養成研究会への資料提供を随時おこなえたことである。（１）講師マニュアルの作成、（２）講義計画書、（３）西河技術経営塾の演習の教授法の３点を整理した。今期で、このプロジェクトを終了する。

5. 技術経営人財育成セミナー

2024 年 03 月 15 日、財団にて余田幸雄氏（タスク・ヨダ代表）を迎え『スタートアップから中堅企業への発展のために経営者が考えるべきもの』と題するセミナーを開催した。野中郁次郎氏の著書『知的機動の本質 ―アメリカ海兵隊の組織論的研究』には、スタートアップから中堅企業への発展にとって、示唆する内容が多い。アメリカ海兵隊の組織論を様々な視点からの考察が教示された。

セミナーへの参加者は、財団事務所に 9 名、Zoom で 9 名の参加があり、合計で 18 名が参加した。

6. 調査研究

6. 1 地方創生研究会

日本は、人口減少、高齢化という社会現象が起きていて、その影響をまともに受けているのが地方である。色々な要因が絡んで起きていると思われるが、原因分析の前に、人が集まる魅力ある地方の街づくりを研究してみる必要があると考えているとの問題意識で、吉池富士夫（現芝浦工業大学理事）を迎え、2019 年 10 月 24 日に第 1 回の地方創生研究会（座長吉池富士夫）を開催した。

今期は、第 8 回目の研究会を 2023 年 12 月 8 日、日本経済大学大学院の森下あや子教授を迎え『長寿企業の持続戦略 ―地域密着の洗練された協力戦略―』と題し報告を受けた。今期で、地方創生研究会を終了する。

6. 2 西河技術経営塾講師養成研究会

経営人財を育成する目的の「西河技術経営塾」は永続的でなければならない。西河技術経営塾の強みを整理し、暗黙知となっている西河技術経営塾における技術経営人財育成の How to を形式知化（文字化）する。次世代の講師が学ぶことができる知見として、西河技術経営塾の学習指導要領および講師養成マニュアルとして整理し、この知見を学ぶことで、

誰もが西河技術経営塾の真髄を理解した経営者育成ができる人材になれるようになることを目指す。第1回を2023年12月6日（水）に開催し、以下の会合を開催した。

研究会のメンバーに、西河洋一理事長、小平和一郎専務理事（座長）、長谷川一英（株）E&K Associates 代表、小坂哲平小坂建設（株）代表取締役、松井美樹事務局員の5名が参加した。

第1回 2023年12月6日

（1）西河技術経営塾講師養成研究会の設立、（2）これまでの講師養成の経緯、（3）本研究会の論点、（4）西河技術経営塾の基本コンセプト、（5）西河技術経営塾講座の基本構成、（6）塾講座で学ぶこと。

第2回 2023年12月20日

（1）西河技術経営塾の特徴（前回の振り返り）、（2）西河技術経営塾の指導法（前回の振り返り）、（3）小平講師がやっていること、（4）求められる講師像、（5）講師養成における課題。

第3回 2023年2月7日

（1）前回の振り返り、（2）求められる講師像（西河技術経営塾の講師に求めるスキルの確認）、（3）西河技術経営塾（沼田校）5期の講義構成の変更。

第4回 2024年2月14日

（1）前回の振り返り、（2）西河技術経営塾の講義構成の見直し、（3）研究会での検討課題。

第5回 2023年3月6日

（1）前回の振り返り、（2）11期振り返りシート、（3）講義資料と講義計画書。

第6回 2024年3月27日

（1）前回の振り返り、（2）代々木校11期生のマンダラート、（3）沼田校5期生の中長期経営課題シート、（4）講義資料と講義計画書、（5）次回日程の決定。

第7回 2024年4月24日

（1）前回の振り返り、（2）講義計画書の沼田5期での検証の報告、（3）代々木11期の振り返り、（4）「西河洋一の経営哲学」の内容、（5）次回以降の日程確認。

第8回 2024年5月31日

（1）前回の振り返り、（2）沼田オープンセミナー「経営哲学」の振り返り、（3）代々木第12期の講師構成と案内、（4）講義マニュアル素案、（5）次回以降の日程確認。

第9回 2024年6月26日

（1）前回の振り返り、（2）西河技術経営塾の演習の教授法、（3）講師マニュアル素案、（4）研究会で出てきた検討項目の進捗状況、（5）次回以降の日程確認。

第10回 2024年8月21日

（1）前回の振り返り、（2）松下政経塾見学の報告、（3）沼田5期の振り返り、（4）西河技術経営塾の演習の教授法、（5）本研究会の総括、（6）今後の予定

10月16日に第11回を開催し、まとめの議論を行い、本研究会を終了する予定。

6. 3 風の時代を読む研究会

西河洋一理事長は、『風の時代』が到来するという。風の時代は、これまでの資本主義・経済活動の基盤作りの時代から個々の権利や自由を開放する時代である。「個人、個々の自由と権利、平等性」がさけられ、ネット社会において、人と人との繋がりが希薄になる中で、いかに人との関わり合いを作り上げるかが重要な時代であるという。

新しい時代では一人一人が主役である。自分の力で考えて、それを行動していく。それを繰り返すことでパワーが増し、幸せが舞い込んでくる。同じ価値観を持つ仲間を増やし、新しい風の時代の到来を意識して、ポジティブな心でワクワクしながら新たな価値観を見つける。

財団は、新しい風に乗って新しい時代をつくれる経営リーダーの育成に取り組んでいる。実際どのような時代が到来するのか。「風の時代を読む研究会」をという研究会を座長に森下あや子（日本経済大学大学院教授）を迎えて設立した。

研究会のメンバーには、西河洋一理事長、森下あや子、吉池富士夫（芝浦工業大学理事）、長谷川一英（青山大学大学院非常勤講師、(株) E&K Associates 代表）、下斗米秀之（明治大学政治経済学部専任講師）、小平和一郎専務理事の6名が参加した。

準備会合 2024年4月4日

研究会設立にあたっての準備会合を開催した。小平専務理事が研究会設置の趣意を説明し、途中で森下座長に引き継いだ。「風の時代の嵐に耐えられる企業経営とは何か」という仮の名前で開催し、名称についても議論した。

準備会合には、西河、森下、吉池、小平の4名が参加した。

第1回 2024年5月30日（木）

長谷川、下斗米を研究会のメンバーに加え、研究会を開催した。

今回の講師の下斗米は、財団の活動紙 Earnest の最終頁にコラムを書いている。既に26回の掲載を終えた。専門はアメリカ経済史であるが、今日の講演ではインドの話もお願いした。演題を『米印関係史に学ぶ人材育成』とした。

超大国アメリカ、どうやって人材を育成し供給しながら経済成長に繋げてきたのか、なぜインドがアメリカにおける高度人材の重要な供給源になったのかを話してくれた。

第2回 2024年12月6日（金）（予定）

萩原伸次郎横浜国立大学名誉教授を迎え、「米国大統領選の終えた最新の米国経済の動向」と題する講演を依頼している。

7. 広報活動

7. 1 活動報告書（印刷物）の発行

情報紙 Earnest を本年度 3 回発行した。豊かで明るい持続的な成長をする日本づくりに寄与することを目指す当財団の活動を広報した。

以下、各号の概要を報告する。

Vol. 12 No. 1 (S043) 誠実を伝える情報紙 Earnest (2023. 11. 30)

持続的な成長を担う経営者の育成（西河技術経営塾代々木校 11 期開塾）

地方創生、利根・沼田地区の経営者の育成（西河技術経営塾沼田校 4 期 修了式）

西河技術経営塾のノウハウの文字化（西河技術経営塾文字化プロジェクト）

Vol. 12 No. 2 (S044) 誠実を伝える情報紙 Earnest (2024. 02. 29)

ワクワクするような新たな価値観（賀詞交歓会（令和 6 年）

西河技術経営塾講師育成研究にに取り組む（西河技術経営塾講師養成研究会）

企業同士が協力的なのは間接互惠が働くから（第 7 回 地方創生研究会）

Vol. 12 No. 3 (S045) 誠実を伝える情報紙 Earnest (2024. 05. 31)

スタートアップから中堅企業へ（第 30 回 技術経営人財育成セミナー）

経営は自分の頭で考える（西河技術経営塾代々木校 11 期 終了式）

塾で経営学び地域再生を担う（西河技術経営塾沼田校 5 期 開塾）

Vol. 12 No. 4 (S046) 誠実を伝える情報紙 Earnest (2024. 09. 30)

風の時代を読む研究会

西河技術経営塾沼田校 5 期終了式

敬愛大学寄付講座

7. 2 賀詞交歓会（令和 6 年）

「新年賀詞交歓会 2024」を令和 6 年 1 月 17 日（水）「飛躍」をテーマに帝国ホテル（桜の間）で開催した。72 名が出席した。

西河理事長の「かつての『地の時代』と『風の時代』という新しい流れがぶつかり合いながら、様々な価値観が生まれ変わっていく。仲間を増やし、新たな風の時代の到来を意識して、ポジティブな心でワクワクしながら新たな価値観を見つけよう」との挨拶で開幕した。

自社の強みを短時間でビジネスパートナーに伝える「エレベーターピッチ」では、塾生・塾生OBが登壇し、塾での成果をどんな価値として提供できているかを語った。

能登半島地震復興支援

金沢を拠点とする「一般社団法人地域創生マネジメントいしかわ（稲垣渉代表理事）」が取り組む被災者の復興支援の協力を参加者に呼びかけた。会場で集まった義援金に財団からの義援金を併せて 261,310 円を翌日一般社団法人の口座に振り込んだ。

7. 3 広告宣伝

芝浦工業大学校友会の賛助広告や日本開発工学会「開発工学」に広告を掲載した。

8. 役員構成と評議員会、理事会、事務局体制

8. 1 役員

- (1) 理事長 西河 洋一 (㈱アーネストワン 取締役)
- (2) 専務理事 小平和一朗 (㈱イー・ブランド 21 代表取締役)
- (3) 理事 浅野 昌宏 (一般社団法人アフリカ協会 副理事長)
山中 隆敏 ((株) メディカルパーフェクト代表取締役社長)
- (4) 監事 廣田 令子 (税理士)
- (5) 顧問 吉久保誠一 (元 T O T O ㈱専務取締役)、平強 (Tazan International CEO)、大橋克巳 (㈱クラレ社友)、柴田智宏 (J X 金属 (株) 社友)、杉本晴重 (元 (株) 沖データ代表取締役社長)

8. 2 評議員

- 吉久保 信一 (弁護士)
- 志手 一哉 (芝浦工業大学 教授)
- 下斗米 秀之 (明治大学政治経済学部 専任講師)
- 渋谷 加津美 ((株) タムラ製作所)
- 小坂 哲平 (小坂建設 (株) 代表取締役)

8. 3 評議員会の開催

第 12 回定時評議員会を 2023 年 12 月 13 日 (水)、フォーレストテラス明治神宮内「椎」の間にて行った。

- 第 1 号議案 第 11 期事業報告<承認>
- 第 2 号議案 第 11 期決算報告書<承認>
- 第 3 号議案 第 12 期事業計画<決議>
- 第 4 号議案 第 12 期収支予算書<決議>
- 第 5 号議案 評議員、理事及び監事の報酬の額<決議>
- 第 6 号議案 議事録署名人の選任<決議>
- 理事会報告 顧問の報酬の額

8. 4 理事会の開催

以下の理事会を開催した。

(1) 第 96 回理事会 (2023 年 10 月) 2023 年 10 月 11 日

- 第 1 号議案 2023 年 9 月度決算および第 11 期決算の報告
- 第 2 号議案 西河技術経営塾 (代々木校：第 11 期) 修了式開催場所の提案
- 第 3 号議案 評議員会開催の提案と議案書、事業報告および第 12 期役員体制の審議
- 第 4 号議案 賀詞交歓会の企画・提案

(2) 第 97 回理事会 (2023 年 11 月) 2023 年 11 月 08 日

第 1 号議案 2023 年 10 月度決算

第 2 号議案 評議員会開催の提案と第 12 期事業計画と予算の審議

第 3 号議案 賀詞交歓会の企画・提案

(3) 第 98 回理事会 (2023 年 12 月) 2023 年 12 月 13 日

第 1 号議案 顧問の報酬の額

(4) 第 99 回 理事会 (2024 年 02 月) 2024 年 02 月 14 日

第 1 号議案 2023 年 11 月度、12 月度、2024 年 1 月度決算

第 2 号議案 評議員会開催の提案と第 12 期事業計画と予算の審議

第 4 号議案 賀詞交歓会 2024 年飛躍の報告

第 5 号議案 西河技術経営塾（沼田校：第 5 期）の開塾の報告

第 6 号議案 人財育成セミナー（第 30 回）

(5) 第 100 回 理事会 (2024 年 03 月) 2024 年 03 月 13 日

第 1 号議案 2024 年 2 月度決算

第 2 号議案 地方創生研究委員会（座長 吉池富士夫）の終了の報告

第 3 号議案 次世代研究会の準備開講の設立の報告

第 4 号議案 西河技術経営塾（沼田校：第 5 期）の開塾の報告

第 5 号議案 人財育成セミナー（第 30 回）

第 6 号議案 次号 Earnest（S44：2 月 29 日号）の企画・発行の報告

第 7 号議案 山中隆敏理事の海外出張の報告

(6) 第 101 回 理事会 (2024 年 04 月) 2024 年 04 月 03 日

第 1 号議案 2024 年 3 月度決算

第 2 号議案 「風の時代を読む」研究会の準備開講の開催の報告

第 3 号議案 西河技術経営塾（沼田校：第 5 期）のオープンセミナー開催の報告

第 4 号議案 人財育成セミナー（第 30 回）報告

第 5 号議案 Earnest（S44：2 月 29 日号）の企画・発行の報告

(7) 第 102 回 理事会 (2024 年 06 月) 2024 年 06 月 12 日

第 1 号議案 2024 年 4 月度、5 月度の決算

第 2 号議案 「風の時代を読む」研究会の準備会合開催および研究会の開催の報告

第 3 号議案 西河技術経営塾講師養成研究会（報告）

第 4 号議案 Earnest（S45：5 月 31 日号）の企画・発行の報告

第 5 号議案 西河技術経営塾の第 12 期の募集と講義構成の報告

第 6 号議案 ノートパソコン購入の件（報告）

（８）第 103 回 理事会（2024 年 07 月） 2024 年 07 月 17 日

- 第 1 号議案 2024 年 6 月度の決算
- 第 2 号議案 「風の時代を読む」研究会の開催の報告
- 第 3 号議案 西河技術経営塾講師養成研究会（報告）
- 第 4 号議案 Earnest（S45：5 月 31 日号）の企画・発行の報告
- 第 5 号議案 西河技術経営塾の第 12 期の募集状況の報告

（９）第 104 回 理事会（2024 年 09 月） 2024 年 09 月 18 日

- 第 1 号議案 2023 年 7 月度、8 月度の決算報告
- 第 2 号議案 西河技術経営塾（沼田校：第 5 期）の報告
- 第 3 号議案 西河技術経営塾（代々木校：第 12 期）の報告
- 第 4 号議案 敬愛大学寄付講座終了の報告
- 第 5 号議案 「風の時代を読む」と題する研究会の準備会合と研究会の報告
- 第 6 号議案 西河技術経営塾講師養成研究会の報告
- 第 7 号議案 定時評議員会の開催
- 第 8 号議案 Earnest（S46：8 月 31 日号）の企画報告

8. 5 事務局体制

事務局体制について報告する。

（１）事務局体制

2023 年 11 月からは松井美樹、渋谷加津美の 2 名体制とした。

2023 年 10 月末で浜辺修は退任した。

（２）定例事務局会議

小平専務理事、渋谷、松井で事務局会議を毎月 第 1 週の金曜日 14:00 から財団で定例的に開催した。

具体的には 2023 年 10 月から 2024 年 9 月までの間に 13 回開催した。

9. 外部団体との連携

下記の団体との連携に取り組む。

- （１）敬愛大学（三幣利夫 理事長）で寄付講座第 7 期（百万円寄付）に取り組む。
- （２）一般社団法人日本開発工学会（佐藤一弘会長）法人会員。研究会活動に協賛企業となり協賛金を寄付、事務所の提供、活動支援など。
- （３）芝浦工業大学 MOT 同窓会支部（西河洋一支部長）、活動支援など。
- （４）一般社団法人アフリカ協会（松浦晃一郎会長）法人会員。当財団の理事である浅野昌宏が副理事長に就任している。

以上